

二〇二一年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト活動報告

弘前大学人文社会科学部 原 克昭

はじめに

深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトは、二〇一七年の調査開始以来、五年目を迎えた。昨年度に引き続き本年度もまた旧態依然として、新型コロナウイルスの全国規模に及ぶ感染拡大に振り回され、各所各種の催し物が中止あるいは延期・変更を余儀なくされた。その渦中において、深浦円覚寺聖教の全二一三五点が「円覚寺真言・修験聖教類及び文書」として、二〇二一年四月九日に青森県の県重宝指定を受けるはこびとなった。県重宝指定にむけた悉皆調査と目録整理を推進させ、申請目録作成のお手伝いをさせていただいてきた本プロジェクトにとっても活動冥利に尽きるばかりである。

そこで、本年度は県重宝指定を記念した特別講演フォーラムを企画し、さらに本報告書においては《県重宝指定記念号》と銘打った形で刊行することとした。九月二十六日に開催した第四回目となるフォーラムについては、あいにくオンライン開催とせざるを得なかったが、最大級クラスとされる第五波の荒波をくぐり抜け、あたかもその収束を祈念するかのごとく盛會裡のうちに開催することができた。これも、ひとえに円覚寺ならびに深浦町の方々をはじめとする学内外の関係者各位の御理解と御支援があつてのことであり、持続可能な地域社会への貢献活動の一環として、本プロジェクトの有する意義と底力が改めて認識されたところでもある。以下は、本プロジェクト事業における二〇二一年度の活

動報告である。

二〇二一年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会

(オンラインによる特別講演フォーラム)の開催

二〇二一年九月二十六日(日)一三時～一六時、Zoomによるオンライン形式で開催した。

本フォーラムは、二〇二一年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会とともに、深浦町と本学が連携して実施している弘前大学深浦エコサテライトキャンパス令和三年度特別公開講座であり、本年度で第四回目の開催となる。

とりわけ今回は、円覚寺古典籍聖教の県重宝指定を記念するとともに、ひいては寺院資料調査の課題と展望を切り拓くべく例年のフォーラムとは趣向を変えて、「寺院資料調査から地域文化振興を考える——深浦円覚寺古典籍聖教の県重宝指定によせて——」と題して、特別講師に阿部泰郎先生(名古屋大学名誉教授・龍谷大学文学部教授)・三村三代先生(八戸学院大学短期大学部客員教授)・渡辺麻里子先生(大正大学文学部教授・前弘前大学人文社会科学部教授)に御登壇をお願いし、それぞれの立場から御講演いただいた上で、さらに相互に意見交換をする場を設定した次第である。

開催時節の全国的な社会情勢に鑑みて、昨年度にひきつづきZoomによるオンライン開催となった。しかしながら、昨年度のオンライン配信の経験を活かすことで恙無く開催することができた。開催方策は、学内関係者および県内在住の三村先生は弘前大学から、深浦町長および円覚寺副住職の挨拶は深浦町役場から、そして阿部先生・渡辺先生は東京の大正大学から、それぞれ相互に配信することで、弘前大学・深浦町・東京をオンラインでつなぐ「もうひとつの地域連携発信型」の新たな可能性を提起する機会となった。

本フォーラム開催の告知に際しては、ポスター・チラシ（本報告書の巻末に掲載）に、以下の開催趣旨を提示して視聴参加を広く呼びかけた。

本プロジェクトによる深浦円覚寺の古籍保存調査が連携協力する活動成果の一環として、本年4月に「円覚寺真言・修験聖教類及び文書」が青森県重宝指定を受けるにいたりました。そこで、第4回目となる本フォーラムでは、特別講師3名による講演ならびに意見交換をオンライン方式により開催し、その文化資源としての価値と寺院資料調査の意義について、青森県民のみならず、ひいては全国各地の方々にむけて発信し情報共有する場をつくりました。Web開催により弘前大学・深浦町・東京をオンラインでつなぐ、もうひとつの地域連携発信型の新たな試みに、みなさんも参加してみませんか。

例年通り、主催は、深浦町・弘前大学・深浦町教育委員会・弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターが行い、弘前市・東奥日報社・陸奥新報社の後援を仰いだ。また、本年度も公益財団法人青森学術文化振興財団より「地域の振興に係る研究事業（チャレンジ枠）」において「深浦町における歴史文化資源調査とその活用による津軽青森地域振興事業」の助成を受けて実施した。

当日のプログラムは、以下の通りである。

- 一三時 開会の辞 深浦町長 吉田満（深浦町より映像提供）
- 一三時五分 ご挨拶 円覚寺副住職 海浦誠観（深浦町より映像提供）
- 一三時一〇分〜一三時三〇分

趣旨説明・講師紹介

- 一三時三〇分〜一四時

〔講演1〕昔の人がのこしてくれた文字と紙

—— 深浦円覚寺の古籍籍調査と青森の未来 ——

大正大学教授・前弘前大学人文社会科学部教授 渡辺麻里子先生

- 一四時〜一四時三〇分

〔講演2〕たからものは皆で守る

—— 玄人も素人も力を合わせて ——

八戸学院大学短期大学部客員教授 三村三千代先生

（弘前大学より配信）

- 一四時四〇分〜一五時二〇分

〔講演3〕東北は、宗教文化遺産の宝の山である。

—— 奥会津からの真言寺院聖教との比較 ——

名古屋大学名誉教授・龍谷大学文学部教授 阿部泰郎先生

（東京・大正大学より配信）

- 一五時二〇分〜一五時五〇分

意見交換（弘前大学および東京・大正大学よりそれぞれ配信）

- 一五時五〇分 閉会の辞

弘前大学理事（社会連携担当）

石川 隆洋

（弘前大学より配信）

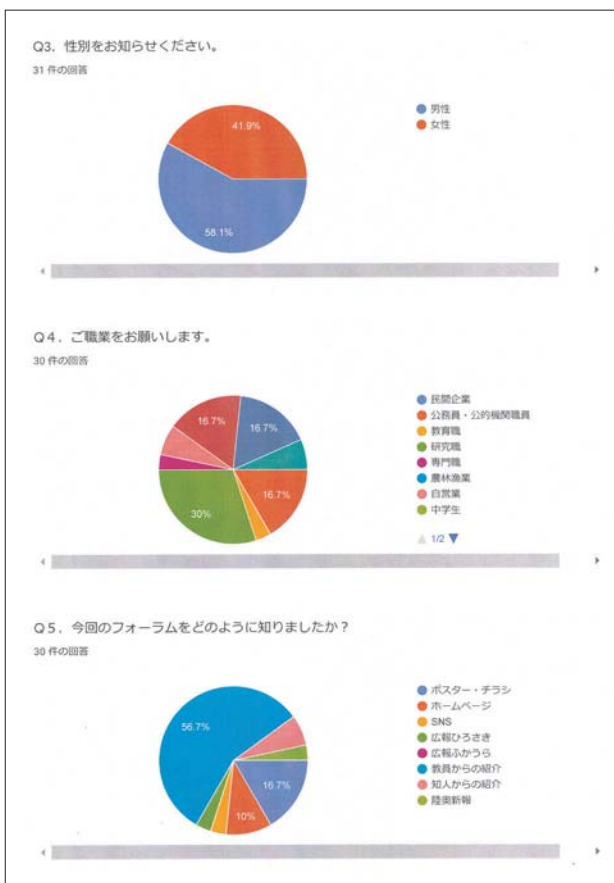
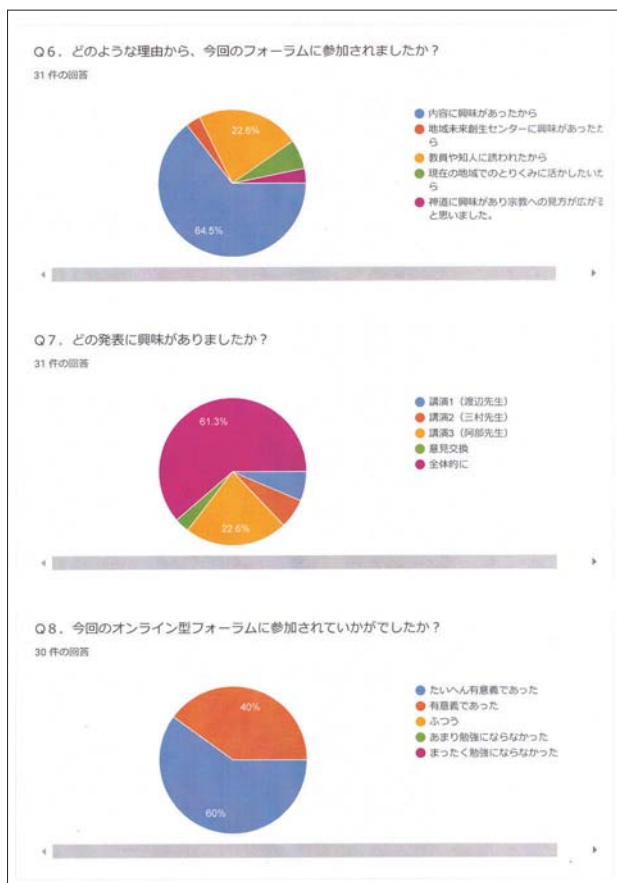
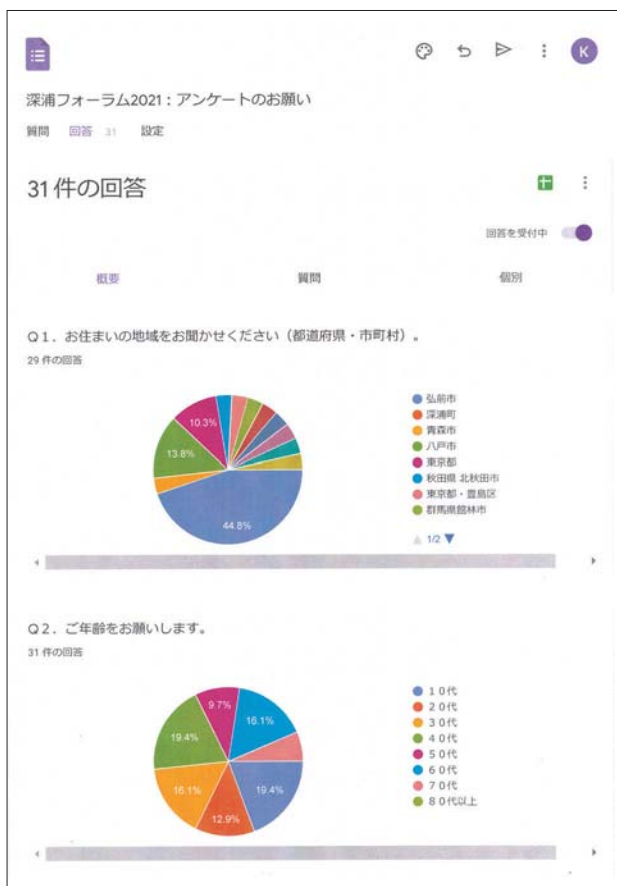
- 一六時 閉会

視聴参加予約にあたっては、Eメールによる予約申込みに加えて、新たにQRコードによる申込みフォームからの予約もできるようにしたことで、一般の方々、学内外の関係者および国内各所さらには海外の研究者など、昨年度以上の一〇〇名に近い参加申込みおよび視聴参加をいただくことができた。また、意見交換の場では、視聴参加のみならずチャット機能を用いた興味深い質問をいくつかお寄せいただくこともできた。

フォーラム開催後には、視聴参加のみならずForm sを活用したWEBアンケートの御協力をお願いした。紙面アンケートに及ぶほどの回答

率は得られなかったものの、記述回答を含めて本プロジェクトにとって非常に参考となる回答を数多くいただいた。WEBアンケートの質問事項ならびに集計結果は、以下の通りである（有効回答数・三二件・約三〇％）。

- Q 1. お住まいの地域をお聞かせください（都道府県・市町村）。
- Q 2. ご年齢をお願いします。
- Q 3. 性別をお知らせください。
- Q 4. ご職業をお願いします。
- Q 5. 今回のフォーラムをどのように知りましたか？
- Q 6. どのような理由から、今回のフォーラムに参加されましたか？
- Q 7. どの発表に興味がありましたか？
- Q 8. 今回のオンライン型フォーラムに参加されていかがでしたか？
- Q 9. 今回のフォーラムについて、ご意見・ご感想をお聞かせください。
- Q 10. 今後とりあげてほしいテーマなどありましたら、お聞かせください。



Q9. 今回のフォーラムについて、「意見・」感想をお聞かせください。

- ・家からオンラインで先生方のお話を拝聴できて大変良かったです。
- ・みんなを巻き込む渡辺先生のパワーに改めて感動しました。
- ・三村先生の世界遺産の縄文文化の考察から、古代、中世、近世、現代までの津軽深浦をベースに北方からの宗教、歴史、文化史を捉える阿部先生や渡辺先生、原先生のフォーラムはとても面白かったです。白神山や十和田湖、岩木山、恐山、八甲田山など自然と歴史、民俗宗教と民間宗教も含めてオール弘前青森で、つがるの芸術文化歴史を探究してほしいです。
- ・多元中継トラブルもなくご苦労様でした。一般の関心の高さをどう生かしていくか参考になりました。
- ・自分の知識では全てを理解することはできませんでしたが、とても面白かったです。
- ・オンライン開催ということで、遠方まで行くことなくお話を聞くことができ、大変勉強になりました。
- ・とても楽しく聴きました。どの先生のお話もとても面白かったです。
- ・県重宝指定を受けて、今後の深浦円覚寺資料のあり方について、先生方のお考えを伺うことができ、大変有意義な会であったと感じました。
- ・保存調査活動や地域と連携した文化振興の大切さが改めてわかりました。
- ・普段聞くことができない話を聴くことができとても参考になった。
- ・新聞の広告が締め切り少し前だったため、ぎりぎり間に合った。陸奥新報だけでなく、東奥日報にも早めに広告を出してほしい。掲載するにしても、今回のような最終面に出れば目に入りやすい。
- ・史料の発掘のためには、「探査と発見」救出↓「目録とデータ化」記録↓「解説と復元」再現↓「公開と共有」公共化の4Rサイクル

が如何に大切かを痛感いたしました。

- ・三村先生の「苦勞をいとわぬ人」「知ろうとする人」のお話が大変参考になりました。素人ながらに無関心な方が少しでも古典に興味を持っていただけるような働きが出来ればなと思いました。
- ・お寺様と地域、自治体と大学、高校生から専門家までみなが結ばれるあらたなネットワークが、地域の力を掘り起こす運動として全国展開するとすばらしいと思いました。そのモデルとなるお話をうかがいとても励まされました。
- ・弘前大学深浦円覚寺保存調査プロジェクトは、人文学研究における社会還元の理想的な一つの形であると思いました。ただ、そうするためには多大な努力と労力、周囲の協力が必要であるということ、今回、渡辺先生のお話でうかがい知ることができました。また、地域寺院調査に参加させていただくことのある一人として、阿部先生や渡辺先生の構想されている地方からのインパクト、地方寺院のネットワークにより全体像を描き出すという見取り図は、大変興味深いと感じました。
- ・報告者の先生方も通常は偏りがちになるところを、(このフォーラムは毎回そうですが)様々なご専門の先生が登場され、多角的なアプローチが非常に勉強になりました。
- ・ちらっと見えたのは儀軌に訓点が付いていたように見えたので興味深い。
- ・3人の個性がでていた発表であったと思います。渡辺先生のダイナミックな調査概要解説。三村先生の「素人」と「玄人」の定義の面白さ。阿部先生の円覚寺と奥会津の残された資料の共通性については、今後の調査研究成果について、是非拝聴したいと思いました。

Q10. 今後とりあげてほしいテーマなどありましたら、お聞かせください。

- ・歴史、考古学は好きです。継続してほしい。
- ・津軽と北方の神話文学、伝承、伝説、語り部録などを蔑ろにせず、青森の人文系学術を総動員して、縄文人の心と精神、思想と宗教、歴史と民俗の謎を探究してほしい。縄文から現代までつないだ上で弘前青森県の地域未来の創生に生かしてほしい。
- ・今後も調査のお話などを聞きたいです。
- ・今後も青森県の諸史料についての研究成果を発信していただけるとありがたいです。
- ・書物に残されるあとがきにとっても興味がありました。
- ・継続的に、みなさまの成果報告をぜひ伺いたいです。
- ・日本の近現代史について。
- ・今後も引き続き寺院調査の成果をご報告いただけると嬉しいですよ。
- ・日本語資料として見た場合、どういう価値があるのだろうか。
- ・テーマではありませんが、円覚寺・奥会津・愛知の大須観音真福寺・醍醐寺を結んだ、現在の「知のネットワーク」を駆使した、報告会を開いて頂ければ幸いです。リモート方式なら可能かなと思えました。

三名の特別講師の先生方による講演および意見交換に対するコメントに加えて、オンライン開催に関する反響もいただいた。三元中継によるオンライン開催の試みとして、まずは一つの成果を挙げたといえるかもしれない。

本プロジェクトに限らず、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターにおける「もうひとつの地域連携発信型」を今後さらに発展継承させるために大いに参考としてゆく所存である。

なお、本フォーラムのオンライン開催にあたっては、深浦町では円覚

寺および深浦町役場、東京会場においては大正大学ならびに同大学院文学研究科の佐藤圭さん、本学においては社会連携部社会連携課と人文社会科学部総務グループの実働的な協力を得られたからこそ、盛会裡に開催できたことに改めまして深謝申しあげます。

むすびに

——深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトによる

古典籍調査再始動にむけて——

本プロジェクトによる深浦円覚寺古典籍調査については、昨年末に実施した通算第三一回調査（二〇二〇年二月五日（土）～七日（月）於・深浦町役場・一階町民ホール・三階監査室）以降、全国規模に及ぶ新型コロナウイルス感染拡大（第四波・第五波）に加えて、青森県より「青森県新型コロナウイルス感染症緊急対策パッケージ」が発令され県内移動でさえ控えざるを得ない社会情勢に鑑みて、定期的な調査は見送ることとなったのは残念の至りである。本プロジェクトの主眼でもある市民参加型の調査も推進させることがかなわなかった。

しかしながら、このたびの県重宝指定を一つの契機として、新年度には県重宝指定一周年記念旁々、改めて市民参加型「青森モデル」の再始動に向けて活動してゆく所存である。

これまで御参加くださったみなさまに改めて感謝申し上げるとともに、ふたたび大学教員・学生と地域町民・高校生が一堂に会して協働調査できる日を待ち望むばかりである。

なによりもまずは社会環境の逸早い回復を待望しつつ、各種事業の再開と持続可能な地域連携発信型の再構築をめざして、ひきつづき本プロジェクトは走り続けてゆくことを期してむすびとしたい。